



## 第7回 がん三次元培養研究会

後援：国立がん研究センター研究所

金沢大学がん進展制御研究所

埼玉医科大学次世代のがんプロフェッショナル養成プラン

[会期] 令和8年2月17日（火）

[会場] 国立がん研究センター・新研究棟 1F

大会議室・セミナー室

組織委員長：関根 圭輔（国立がん研究センター研究所）

岡本 康司（帝京大学 先端総合研究機構）

*The 7th Research Conference  
of  
Research Society for Cancer 3D Culture*

*February 17 (Tue), 2026*

*Chair: Keisuke Sekine, Ph.D.*

*Koji Okamoto, M.D., Ph.D.*

*National Cancer Center Research Institute*

*Teikyo University, Advanced Comprehensive Research Organization*



## ご挨拶

### 第7回がん三次元培養研究会開催にあたりまして

このたび、「がん三次元培養研究会」を代表致しまして、第7回がん三次元培養研究会にご参加頂けますことを深く歓迎申し上げます。

近年の医学研究の進歩により、がん細胞を標的とした様々な化合物、抗体医薬、核酸医薬等が、次世代抗がん剤の候補として次々と見つかってきております。これらの実臨床での有効性を調べる前に、がん細胞株、実験動物等を用いた前臨床での詳細な検証が必要とされます。しかしながら、がん細胞株を用いた従来の方法論では実臨床との相関が十分でない事が多く、またがん細胞のマウス移植を用いた検証では、莫大な時間と費用がかかる事が問題となりえます。従って、がん撲滅に向けた研究を飛躍させるためには、抗がん剤の奏功性検証に向けたより有効な実験プラットフォームを確立する事が重要と言えるでしょう。

近年、臨床検体由来のがん組織を摘出し、オルガノイド、スフェロイド形成法や、CTOS 法等により、がん三次元培養を行う方法論が開発されてきました。これらの培養条件下では、がん細胞が本来有する多様性、幹細胞性や分化能のような特性を保ったまま、継代維持する事が可能です。これらの培養法をもちいる事により、実臨床により近い状態で、より簡便に抗がん剤奏功性の検証を行う事が可能になると期待されます。従って、これらの研究を推進する事により、がんの成因の理解を目指した基礎研究の促進とともに、新規抗がん剤の前臨床段階での検証に役立つ事が期待されます。

このような背景のもと、本研究会は、基礎研究と臨床研究の研究者が集い、三次元培養法をさらに深化拡張させる事でがん研究の新たな研究基盤の確立に寄与する事を目指し、平成29年に発足いたしました。皆様のご意見を頂戴しながら、自由闊達な意見交換の出来る場として活用して頂ける研究会にしていきたいと考えております。前回の本研究会においては、200名近くの方にご参加頂き、この領域に対する期待度の高さを感じました。そこで第7回研究会として、「**がん三次元培養の進化と展望：基礎研究からトランスレーショナルリサーチへ**」をテーマとして、令和8年2月17日にがん三次元培養研究会を開催致します。今回のご講演では、3次元培養の基盤構築、先端的な3次元解析方法から臨床への応用展開と幅広いテーマで御講演お願い致しました。様々な分野のアカデミア研究者のみならず、その応用、事業化等を視野に入れた企業の方々のご参加も歓迎いたしますので、宜しくお願い致します。

令和8年1月 吉日

国立がん研究センター研究所  
関根 圭輔

帝京大学 先端総合研究機構  
岡本 康司

## 【第7回がん三次元培養研究会 概要】

会 期：令和8年2月17日（火）13:00～17:40

会 場：国立がん研究センター  
新研究棟1階 大会議室・セミナー室

後 援：国立がん研究センター研究所・金沢大学がん進展制御研究所  
・埼玉医科大学次世代のがんプロフェッショナル養成プラン

組織委員長：関根 圭輔（国立がん研究センター研究所 独立ユニット長）  
岡本 康司（帝京大学先端総合研究機構 教授）

組織委員会：後藤 典子 （金沢大学がん進展制御研究所 教授）  
井上 聡 （東京都健康長寿医療センター 研究部長）  
堀江 公仁子 （埼玉医科大学ゲノム応用医学 教授）  
池田 和博 （埼玉医科大学ゲノム応用医学 准教授）  
田中 知明 （千葉大学病院大学院医学研究院 教授）  
加藤 聖子 （九州大学 医学研究院 生殖発達医学講座 教授）  
加藤 友康 （国立がん研究センター中央病院婦人腫瘍科 前科長）  
川上 理 （埼玉医科大学総合医療センター泌尿器科 教授）

事務局：〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1  
国立研究開発法人 国立がん研究センター研究所  
がん細胞システム研究ユニット  
代表 関根 圭輔  
担当 高山 尚愛

（連絡先） TEL：03-3547-5201（内線：3458）

FAX：03-3542-8170

Email：natakaya@ncc.go.jp; kesekine@ncc.go.jp

研究会 HP：

[https://square.umin.ac.jp/cancer3dculture/7th\\_meeting.html](https://square.umin.ac.jp/cancer3dculture/7th_meeting.html)

## 【会場案内】

会 場： 国立研究開発法人国立がん研究センター  
新研究棟1階 大会議室・セミナー室

〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1

電話：03-3542-2511      內線 2493（研究所事務）

内線 3858 (研究会事務)

## 国立がん研究センター地図



アクセス:

- 都営地下鉄 大江戸線 築地市場駅A3番出口から徒歩1分  
構内に入りましたら、首都高速沿いの通路を進んで地図中の右角を曲がりますと、新研究棟入り口があります。
- 東京メトロ 日比谷線・都営地下鉄 浅草線 東銀座駅6番出口から徒歩5分
- 東京メトロ 日比谷線 築地駅2番出口から徒歩5分
- 東京メトロ 有楽町線 新富町駅4番出口から徒歩10分

**第7回 がん三次元培養研究会**  
「がん三次元培養の進化と展望：基礎研究からトランスレーショナルリサーチへ」

**プログラム**

受付開始(12:20)      国立がん研究センター・新研究棟 1F

開会の辞(13:00)      間野 博行 (国立がん研究センター・理事長)

研究会趣旨(13:05)      関根 圭輔 (組織委員長、国立がん研究センター研究所)

**特別講演**

13:10-13:35

座長：関根 圭輔 (国立がん研究センター研究所)

井上 正宏 (京都大学大学院 医学研究科 クリニカルバイオリソース研究開発講座)  
がんモデルとしての初代培養の必要性と展望  
(The Importance and Potential of Primary-Cultured Organoids  
in Cancer Modelling)

**セッション1 三次元培養のオミックス解析への展開**

13:35-14:15

座長：井上 聡 (東京都健康長寿医療センター)

城口 克之 (理化学研究所 生命機能科学研究センター)  
三次元空間一細胞オミックス計測を実現する新しいアプローチ  
(A Novel Approach for Single Cell-Based 3D Spatial Omics)

塩川 大介 (愛媛大学医学部附属病院 先端医療創生センター)  
3D 培養系を用いた大腸がん進展機構の解明  
(Elucidation of the Mechanisms Driving Colorectal Cancer Progression Using 3D  
Culture Systems)

休憩 14:15-14:25

田中 知明（千葉大学大学院 医学研究院）

神経内分泌小細胞肺癌を標的としたヒストン H3 競合型 LSD1 阻害剤 TAS1440 による  
LSD1-INSM1 複合体制御を介した TGF- $\beta$ /NOTCH シグナル活性化と腫瘍抑制  
(The LSD1 Inhibitor, TAS1440 Suppresses Neuroendocrine Small Cell Lung Cancer  
by Activating TGF- $\beta$  and NOTCH Signaling via LSD1-INSM1 Complex Disruption)

吉原 弘祐（新潟大学大学院 医歯学総合研究科産婦人科）

子宮体癌の発生起源としての子宮内膜  
(Uterine Endometrium as the Origin of Endometrial Cancer)

加藤 聖子（九州大学大学院 医学研究院 生殖病態生理学分野）

三次元培養を用いた子宮内膜の老化と癌幹細胞形質の解析  
(Analysis of Endometrial Cell Senescence and Cancer Stem Cell Traits  
Using Three-Dimensional Culture)

関根 圭輔（国立がん研究センター 研究所）

がんオルガノイドを用いた希少がん治療への新たなアプローチ

(Novel Therapeutic Approaches for Rare Cancers through Organoid Models)

井上 聡（東京都健康長寿医療センター 研究所）

腎がんと前立腺がんの患者由来三次元スフェロイド培養とその応用

(Establishment and Applications of Patient-Derived Three-Dimensional Spheroid Cultures from Renal Cell Carcinoma and Prostate Cancer)

後藤 典子（金沢大学 がん進展制御研究所）

骨転移超早期に出現する新たなマクロファージ集団による骨転移細胞の制御

(Highly Plastic Macrophage Niches Orchestrate Acquired Quiescence and Reactivation in Breast-Cancer Bone Metastasis)

閉会の辞（17:40） 後藤 典子（金沢大学がん進展制御研究所）

---



## ポスターセッション

- P 1. CytoPairs analysis identifies HIF-1<sup>+</sup> M2 macrophages as a chemoresistant niche in ovarian clear cell carcinoma  
神田 裕介<sup>1</sup>、森 裕太郎<sup>2</sup>、酒井 宏晃<sup>1</sup>、大畑 広和<sup>1</sup>、吉原 弘祐<sup>2</sup>、岡本 康司<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>帝京大学先端総合研究機構・岡本研究室、<sup>2</sup>新潟大学医学部・産婦人科学教室
- P 2. BMP/Smadシグナルの欠損は、腸管上皮吸収細胞の機能不全を引き起こすとともに、Apc遺伝子ヘテロ欠損に伴う腫瘍形成を抑制する  
Loss of BMP/Smad signaling causes dysfunction of enterocytes and suppresses tumor formation in Apc heterozygous deficiency  
木下 花鈴<sup>1</sup>、福田 萌奈<sup>1</sup>、富山 晶子<sup>1</sup>、立川 梨佳<sup>1</sup>、内田 吉美<sup>1</sup>、An Zwijsen<sup>2</sup>、田代 悦<sup>1</sup>、中野 なおこ<sup>1</sup>、伊東 史子<sup>3</sup>、伊東 進<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>昭和薬科大学 薬学部 生化学研究室、<sup>2</sup>KU Leuven, Belgium、<sup>3</sup>富山大学大学院総合医薬学研究科 細胞生物学研究室
- P 3. FJX1 produced by metastasis associated lung endothelial cells promotes breast cancer cell stemness at the lung  
肺血管内皮細胞のFJX1は転移乳がん細胞の幹細胞性を誘導する  
Shandan<sup>1</sup>、本宮 綱記<sup>1</sup>、後藤 典子<sup>1,2</sup>  
<sup>1</sup>金沢大学がん進展制御研究所・分子病態研究分野、<sup>2</sup>金沢大学環境ストレスセンター
- P 4. Smad2/Smad3遺伝子ダブル欠損は、浸潤性腸管腫瘍を形成する  
Loss of both Smad2 and Smad3 genes results in the formation of invasive intestinal tumors.  
鈴木 日菜<sup>1</sup>、中野 なおこ<sup>1</sup>、江藤 秋実<sup>1</sup>、日原 輝夢<sup>1</sup>、立川 梨佳<sup>1</sup>、富山 晶子<sup>1</sup>、伊東 史子<sup>2</sup>、伊東 進<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>昭和薬科大学薬学部 生化学研究室、<sup>2</sup>富山大学大学院総合医薬学研究科 細胞生物学研究室

## ポスターセッション

- P 5. ケミカルゲノミクスの手法を用いたTGF- $\beta$  シグナルによるCLDN4遺伝子の発現制御機構の解明  
Elucidation of the mechanism underlying TGF- $\beta$ -induced CLDN4 gene regulation using a chemical genomics approach  
久保田 愛望<sup>1</sup>、鈴木 蒼由<sup>1</sup>、高橋 光花<sup>1</sup>、中野 なおこ<sup>1</sup>、鯉沼 代造<sup>2</sup>、宮園 浩平<sup>3,4</sup>、伊東 進<sup>1</sup>、田代 悦<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>昭和薬科大学 生化学研究室、<sup>2</sup>東京大学大学院医学系研究科 人体病理学・病理診断学分野、<sup>3</sup>東京大学大学院医学系研究科 応用病理学、<sup>4</sup>理化学研究所 生命医科学研究センター がん浸潤・転移研究チーム
- P 6. 抗がん剤送達向上を目指した細胞接着不全剤の設計・合成およびがん細胞スフェロイド崩壊活性評価  
Design and synthesis of cell adhesion-disrupting agents for enhanced anticancer drug delivery and tumor spheroid disruption  
小笠原 宙舞<sup>1</sup>、本田 航<sup>2</sup>、平野 貴子<sup>1,2</sup>、袴田 航<sup>1,2</sup>  
<sup>1</sup>日本大学 生物資源科学部 生命化学科、<sup>2</sup>日本大学大学院 生物資源科学研究科
- P 7. MDA-MB-231 細胞の三次元培養モデルにおいてエイコサペンタエン酸 (EPA) はスフェロイド形成を抑制させる  
Proliferation of three-dimensionally cultured MDA-MB-231 spheroids is suppressed by eicosapentaenoic acid (EPA)  
柴 祥子<sup>1</sup>、池田 和博<sup>2</sup>、中山 哲俊<sup>3</sup>、堀江 公仁子<sup>2</sup>、井上 聡<sup>2,4</sup>、田中 知明<sup>3</sup>  
<sup>1</sup>城西大学・薬学部薬学科・生理学研究室、<sup>2</sup>埼玉医科大学・医学部・ゲノム応用医学、<sup>3</sup>千葉大学大学院医学研究院・分子病態解析学講座、  
<sup>4</sup>東京都健康長寿医療センター研究所・システム加齢医学研究
- P 8. 合成ナノクレイを用いたがんスフェロイド三次元培養系の構築と抗がん剤評価への応用  
Establishment of a 3D Cancer spheroid culture system using synthetic nanoclay and its application to anti-cancer drug evaluation  
山田 麻奈未<sup>1</sup>、北村 穂乃香<sup>1</sup>、平出 祥啓<sup>1</sup>、山本 治美<sup>1</sup>、青井 駿太郎<sup>2</sup>、窪田 宗弘<sup>3</sup>、大村 孝男<sup>3</sup>、篠木 進<sup>3</sup>、玉木 悟史<sup>3</sup>、辻川 和丈<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>大阪大学薬学研究科、<sup>2</sup>大阪大学薬学部、<sup>3</sup>クニミネ工業 (株)

## ポスターセッション

- P 9. TMEPAI遺伝子欠損は、Apc遺伝子変異マウスで生じる腺腫・腺がん形成を抑制する  
Loss of the TMEPAI gene suppresses adenoma and adenocarcinoma formation promoted by loss-of-function mutations in the Apc gene  
田所 明日香<sup>1</sup>、中野 なおこ<sup>1</sup>、内田 吉美<sup>1</sup>、新田 富馬<sup>1</sup>、森 ありす<sup>1</sup>、松本 祐樹<sup>1</sup>、  
松下 紗也<sup>1</sup>、渡邊 幸秀<sup>2</sup>、加藤 光保<sup>2</sup>、武藤 誠<sup>3</sup>、伊東 史子<sup>4</sup>、伊東 進<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>昭和薬科大学 薬学部 生化学研究室、<sup>2</sup>筑波大学大学院 人間総合科学学術院 実験病理学研究室、<sup>3</sup>北野病院 医学研究所、<sup>4</sup>富山大学大学院総合医薬学研究科 細胞生物学研究室
- P 10. 合成ナノクレイを用いた三次元スフェロイド培養法の構築と評価  
Construction and evaluation of a 3D spheroid culture method using synthetic nanoclay  
北村 穂乃香<sup>1</sup>、平出 祥啓<sup>1</sup>、山田 麻奈未<sup>1</sup>、窪田 宗弘<sup>2</sup>、大村 孝男<sup>2</sup>、篠木 進<sup>2</sup>、  
玉木 悟史<sup>2</sup>、辻川 和丈<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>大阪大学薬学研究科、<sup>2</sup>クニミネ工業（株）
- P 11. 患者由来がんスフェロイドを用いたスクリーニング評価系の開発  
Patient-derived cancer spheroid-based drug screening system  
竹村 幸敏、小西 一豪  
京ダイアグノスティクス株式会社
- P 12. 消化管がんの進展に寄与するTMEPAI機能阻害剤の探索とスタウロスポリン類縁体によるTMEPAI機能阻害  
Screening of TMEPAI inhibitors aimed for the development of novel molecular targeted drugs for gastrointestinal cancer and identification of staurosporine-derivative that inhibit the function of TMEPAI.  
高橋 薫<sup>1</sup>、古舘 顕弥<sup>1</sup>、中野 なおこ<sup>1</sup>、長田 裕之<sup>2,3</sup>、伊東 進<sup>1</sup>、田代 悦<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>昭和薬科大学 生化学研究室、<sup>2</sup>理化学研究所 環境資源科学研究センター、<sup>3</sup>微生物化学研究所長田ユニット

## ポスターセッション

- P 13. 患者由来がんスフェロイド培養系に基づくダブルネガティブ去勢抵抗性前立腺がんにおけるWNTシグナルの役割  
Roles of WNT signaling in double-negative prostate cancer based on patient-derived tumor spheroid models  
山勢 怜祐<sup>1,2</sup>、堀江 公仁子<sup>1</sup>、池田 和博<sup>1</sup>、北山 沙知<sup>4</sup>、坂本 信一<sup>2</sup>、川上 理<sup>4</sup>、井上 聡<sup>1,3</sup>  
<sup>1</sup>埼玉医科大学医学部 ゲノム応用医学、<sup>2</sup>千葉大学医学研究院 泌尿器科学、<sup>3</sup>東京都健康長寿医療センター研究所 システム加齢医学、<sup>4</sup>埼玉医科大学 総合医療センター泌尿器科
- P 14. 患者由来オルガノイドを用いた膵癌Basal-likeサブタイプへの新規治療開発  
Development of novel therapeutic strategies for Basal-like subtype pancreatic cancer using patient-derived organoids  
上田 孝洋<sup>1</sup>、松本 一秀<sup>2</sup>、藤森 尚<sup>2</sup>、大野 彰久<sup>1</sup>、末永 顕彦<sup>1</sup>、梯 祥太郎<sup>1</sup>、村上 正俊<sup>2</sup>、植田 圭二郎<sup>2</sup>、小川 佳宏<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>九州大学大学院医学研究院 病態制御内科学、<sup>2</sup>九州大学病院 肝臓・膵臓・胆道内科
- P 15. TGF- $\beta$  シグナルによるCD73遺伝子発現制御とがん免疫逃避への生理的意義の解  
TGF- $\beta$ -dependent transcriptional regulation of CD73 gene and its physiological role in immune evasion  
谷 彩音<sup>1</sup>、小栗 央誉<sup>1</sup>、中野 なおこ<sup>1</sup>、鯉沼 代造<sup>2</sup>、宮園 浩平<sup>3,4</sup>、伊東 進<sup>1</sup>、田代悦<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>昭和薬科大学 生化学研究室、<sup>2</sup>東京大学大学院医学系研究科 人体病理学・病理診断学分野、<sup>3</sup>東京大学大学院医学系研究科 応用病理学、<sup>4</sup>理化学研究所 生命医科学研究センター がん浸潤・転移研究チーム
- P 16. 個別化医療を目指した患者由来がんオルガノイドの活用  
Application of patient-derived cancer organoids toward personalized medicine  
市川 恒也<sup>1</sup>、村田 支優<sup>2</sup>、梅田 葵<sup>1</sup>、菅澤 陽斗<sup>1</sup>、田中 庸介<sup>3</sup>、佐藤 潤<sup>2,4</sup>、関根 圭輔<sup>1</sup>  
国立がん研究センター <sup>1</sup>研究所 がん細胞システム研究ユニット、  
<sup>2</sup>中央病院 呼吸器内科、<sup>3</sup>研究所 細胞情報学分野、<sup>4</sup>中央病院 先端医療科

～三次元培養・マウス移植モデル作製用基材～

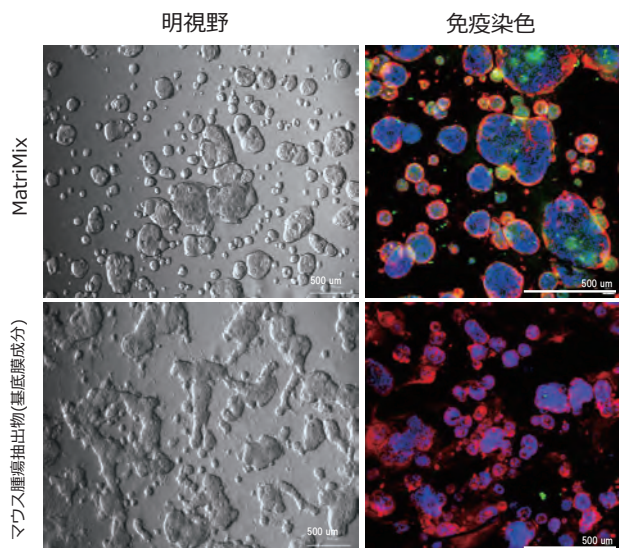


# MatriMix シリーズ

MatriMixシリーズは、高度に精製された3成分(コラーゲン、ラミニンE8、ヒアルロン酸)からなる培養基材です。様々なオルガノイドの培養およびマウス移植が可能です。

## 三次元培養基材「MatriMix」

### 患者由来大腸ガン細胞の培養 (Stage 4) 培養8日目



ラミニンE8やコラーゲンの種類・濃度をカスタマイズすることで細胞に適した環境を創出できます。

こんな方にカスタマイズをお勧めします！

- ・細胞に適した培養環境が見つからない
- ・基材の選択にお悩み

ラミニンE8やコラーゲンは以下の種類を取り揃えています。

ラミニンE8：111E8、221E8、332E8、411E8、511E8  
コラーゲン：I型、II型、III型、IV型、V型

まずはMatriMix (511)をお試しください！

A液：1.85×DMEM, ラミニン511E8断片/ヒアルロン酸架橋物

B液：2.5 %炭酸水素ナトリウム

C液：5.0 mg/mL コラーゲン

3液を細胞と一緒に混合し、37℃で加温することでゲル化し、三次元培養できます。

カスタマイズについてはWeb面談等でご相談を承っております。  
お気軽にお問い合わせください。



MatriMixと基底膜成分で培養した結果、同様のサイズのオルガノイドが形成できた。  
MatriMixで形成したオルガノイドは、転移に関係するVimentinの発現が確認された。

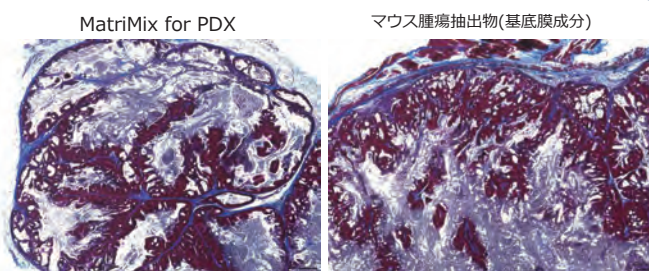
## マウス移植モデル作製用基材「MatriMix for PDX」

がん患者由来細胞や株化がん細胞を混合し、マウス移植することで腫瘍が形成できます。

### 患者由来大腸ガン細胞 移植4週間後



同様のサイズの腫瘍形成が確認された。



大腸癌を模倣した組織が確認された。

無償サンプル  
提供中

## 発売準備中！「Recombinant Proteins」

Protein	comments
Laminin-111, Full length	Basement membrane
Laminin-511, Full length	Basement membrane
Laminin-521, Full length	Basement membrane

Protein	comments
Nidogen-1	Basement membrane
Nidogen-2	Basement membrane
Perlecan	Basement membrane, proteoglycan
Collagen IV (COL4A1, COL4A2)	Basement membrane
Collagen III (COL3A1)	Fibrillar collagen
Versican	proteoglycan
Collagen XVIII, COL18A1 middle/ short	Basement membrane

サンプルのご依頼も承っております。  
お気軽にご相談ください。



株式会社ニッピ バイオ・ケミカル事業部

〒120-8601 東京都足立区千住緑町1-1-1

電話 03-3888-5184

MatriMixに関する問合せ先：[MatriMix@nippi-inc.co.jp](mailto:MatriMix@nippi-inc.co.jp) <https://www.matrimix.nippi.bio/>

Recombinant Proteinsに関する問合せ先：[protein-info@nippi-inc.co.jp](mailto:protein-info@nippi-inc.co.jp)



## 患者様の想いを見つめて、 薬は生まれる。

顕微鏡を覗く日も、薬をお届けする日も、見つめています。  
病気とたたかう人の、言葉にできない痛みや不安。生きることへの希望。  
私たちは、医師のように普段からお会いすることはできませんが、  
そのぶん、患者様の想いにまっすぐ向き合っていたいと思います。  
治療を続けるその人を、勇気づける存在であるために。  
病気を見つめるだけでなく、想いを見つめて、薬は生まれる。  
「ヒューマン・ヘルスケア」。それが、私たちの原点です。

### ヒューマン・ヘルスケア企業 エーザイ



# permedica



**EXACTA**  
Cementless  
Femoral Stem

artmedica  
株式会社



販売元

販売代理店



インターチェンジジャパン株式会社



**KTX 株式会社**





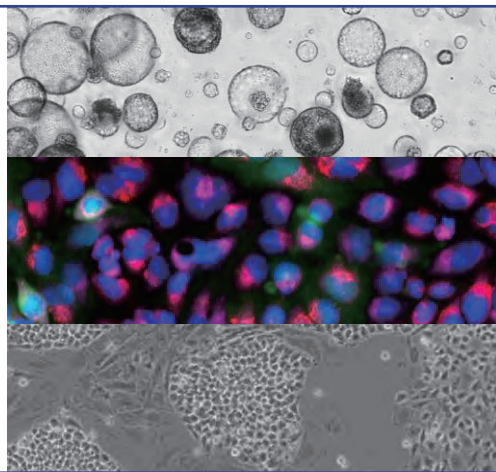
株樹立・継代培養・オルガノイドの品質管理から  
スクリーニング、クローニング用途まで  
2次元・3次元培養細胞をラベルフリー高速解析

コストパフォーマンスに優れた多機能・超高速セルイメージングシステム

## Cell 3 iMager NX

### 特長

- | 96ウェル全面を44秒でスキャン
- | DI対応の直感的なインターフェースで簡単操作
- | 複雑な条件もDeepLearning(AI)解析で対応
- | タイムラプス撮像、小型インキュベータ搭載可能
- | ゲル包埋から浮遊等様々な培養法・プレートに対応



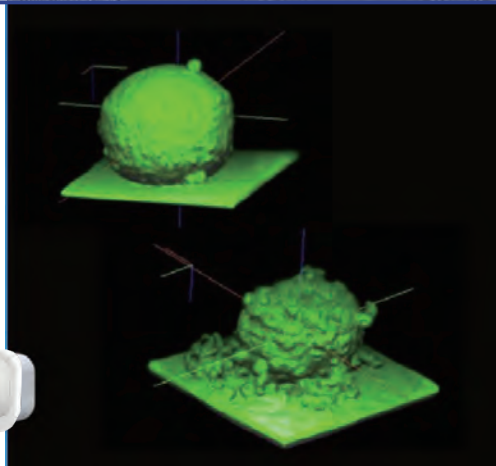
“生きたままリアルに”細胞凝集塊や  
細胞シートをラベルフリー3Dイメージング

光干渉式断層撮像システム

## CELL 3 IMAGER ESTIER

### 特長

- | 3次元形態と内部構造、断面のイメージング
- | 体積・表面積・厚み等の計測が可能
- | タイムラプス撮像、小型インキュベータ搭載可能
- | ゲル包埋から浮遊等様々な培養法・プレートに対応



## 株式会社 SCREEN ホールディングス

京都(本社) / 〒602-8585 京都市上京区堀川通寺之内上る四丁目天神北町1番地の1

お問い合わせ先: screen\_lifescience@screen.co.jp

### ライフサイエンス事業室

京都(洛西) / 〒612-8486 京都市伏見区羽東師古川町322

Tel: 075-931-7824 Fax: 075-931-7826

東京 / 〒135-0044 東京都江東区越中島一丁目2-21 ヤマタキビル7階

Tel: 03-4334-7977 Fax: 03-4334-7978

<https://www.screen.co.jp/products/lifescience/cell>

データ撮りや  
デモのご依頼は  
こちらまで



# ブレイクスルーを 患者さんへ

バイエルのミッション「Health for all, Hunger for none (すべての人に健康を、  
飢餓をゼロに)」の実現に向けて、患者さんの治療に変革をもたらすイノベーションを推進し、  
人々のクオリティ・オブ・ライフの向上に貢献していきます。

バイエル薬品株式会社 <https://pharma.bayer.jp>

Health for all, Hunger for none





Making a difference to human health through everything we do



## dragonfly® discovery

rapid and reliable reagent dispenser

SPT Labtech 独自のテクノロジーによるポジティブ・ディスプレイメント方式の分注方式により、アッセイ開発時間を短縮し、スクリーニングにおけるアッセイの堅牢性を大幅に向上させることができます。

Any Liquid, Any Volume, Any well, Anytime !!

そんなディスペンサーを、マトリゲル培地の分注実績を携え、展示会にてお披露目します。

## firefly®

All in System

シングルチップ~384チップを自在に使用できるピペットヘッドと、独立6チャンネルのdragonflyの非接触型ディスペンサーヘッドを搭載した、コンパクトだけど3層構造で、ハイスループット、低コストオペレーションが可能な分注ワークステーション



SPT Labtech Japan K.K.

☎ 03-6423-1644

✉ japan@sptlabtech.com

🏠 [www.sptlabtech.com/japan](http://www.sptlabtech.com/japan)



Contact Us



Find us

**sptlabtech**

がんを勝ちたい、もっと。

家族と一緒にいたい、もっと。

患者さんを笑顔にしたい、もっと。

革新的な薬を届けたい、もっと。



がんと向き合う  
一人ひとりの想いに  
応えたい。

私たちMSDは、革新的ながん治療薬を  
開発する情熱を抱き、  
一人でも多くの患者さんに  
届けるという責任をもって  
がん治療への挑戦を続けています。

**WINNING**  
**MORE**  
**AGAINST**  
**CANCER**

MSD株式会社

〒102-8667 東京都千代田区九段北1-13-12 北の丸スクエア  
<http://www.msd.co.jp/>



# What science can do

## オンコロジー併用療法

アストラゼネカは、バイオ医薬品と低分子医薬品を併用することで、がん細胞を直接攻撃すると同時に、身体の自己免疫システムを活性化することにより、がん細胞の細胞死を誘発する治療法の開発に取り組んでいます。

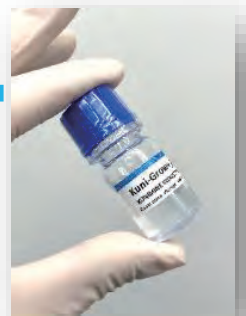
免疫細胞への腫瘍の抑制シグナルを阻害することで抗腫瘍免疫を増強する抗体

アストラゼネカ株式会社

〒530-0011 大阪市北区大深町3番1号 グランフロント大阪タワーB  
www.astrazeneca.co.jp/

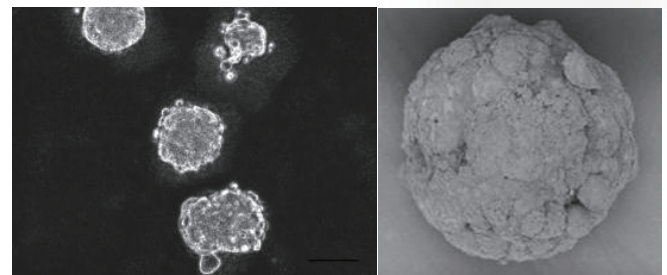
## もっとも扱いやすい！がん細胞株向けスフェロイド形成用試薬 Kuni-Grow+®シリーズ

Kuni-Grow+®（クニグロープラス）は主成分が無機層状化合物（粘土）からなる細胞培養向け研究用試薬です。お使いの培地に添加するだけで培地中の成長因子（血清タンパク質など）を吸着し、細胞に作用することでスフェロイドの形成を促進します。様々ながん細胞株においてスフェロイド形成が確認されており、初めて3D培養に取り組む場合や、多検体を扱うスクリーニング試験にも適しております。



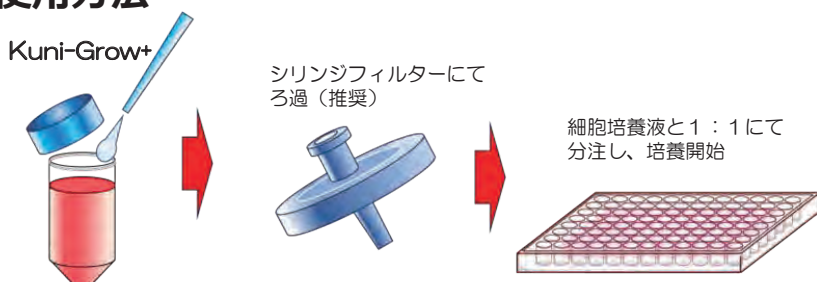
### いつもの2D培養条件のままスフェロイド形成！

- 培地に添加するだけでOK（専用の培地や培養容器は不要）
- 複数のがん細胞株で有効性を確認  
（現在、8種類のがん由来の計23種の細胞株で確認）
- 短期間でフェロイド形成（数日～1週間程度）
- 位置の移動が少なく、経時観察に適したスフェロイド



HT29のスフェロイド観察像

### 使用方法



培地に対し試薬を98対2の割合で添加、混合

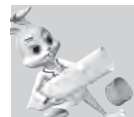
最終濃度としては1% となるよう調整



Kuni-Grow+は富士フイルム和光純薬株式会社にて販売中

クニミネ工業株式会社





**Selleck.co.jp**



TEL: 045-509-1970  
FAX: 045-509-1971  
Mail: [sales@selleck.co.jp](mailto:sales@selleck.co.jp)

selleck



## 活性化化合物

- 9,500 以上の阻害剤、活性化剤、天然化合物など多様な生物活性化合物をラインナップ
- HPLC、NMR に加え、元素分析による厳格な品質管理
- バルクサイズディスカウント

## 化合物ライブラリー

- FDA 承認薬剤、多種のシグナル系、特定疾患関連化合物...  
様々な研究分野に対応した 80 種類以上のライブラリーセット
- 約 9,000 種の化合物から自由にカスタマイズも可能

## in vivo 実験用抗体

- 高純度低エンドトキシンの動物投与用抗体
- 各種 CD マーカー、免疫チェックポイント PD-1/PDL-1/CTLA-4 抗体等  
免疫、がん研究に

**10x GENOMICS**

# 究極のシングルセル 空間生物学を体験 Xenium Analyzer

位置情報を保持したまま、シングルセルの解像度で  
組織中の数百から数千のRNAをin situ解析

10x Genomics Japan  
最新ニュースはこちら



10x Genomics

[www.10xgenomics.com/jp](http://www.10xgenomics.com/jp)

お問い合わせ [japanmarketing@10xgenomics.com](mailto:japanmarketing@10xgenomics.com)

